

サイト名称

奄美大島 真米（まぐむ）の里 秋名・幾里・大勝

法人・団体名

一般社団法人 奄美稲作保存会

希望する支援の種類、具体的な内容

● 金銭的支援

収穫した米を販売して運営費にするための農機具購入や既存の農機具の修理費、自分達の活動を広く知っていただくためのホームページ制作費などの金銭的支援

● 人的支援

米作りの農機具が揃ってないので人手に頼らなければならないのが現状
田植え時期 3月～4月 稲刈り時期 7月～8月
数日でも良いのでまとまった人数の人的支援があると助かります。

● 技術的支援

奄美群島で唯一大規模な水田が広がる場所なのですが耕作放棄地が増え環境が荒れてしまい水路などが機能してなくて作物を育てることが難しい水田が広がり始めています。コンクリートの水路ではなく昔ながらの土の水路なので多種多様な生物が生息しています。その環境を壊さず正常な機能をする水路にする技術を教えていただき実践したいと考えています。機械化された水田ではなく昔ながらの手作業がメインの深くて乾きにくい水田が多いです。生産者の高齢化や減少を考えるとスマート農業を取り入れたり、不耕起栽培や多年草栽培など従来の稲作とは違うやり方もあるのかと思っています。

● 物的支援

私たちが米づくりをしている場所は山から川に水が流れその水が一年間365日絶える事なくことなく水田に入り海へ流れています。
30年前と比べると山・川・水田・海、全て荒れてしまっています。ここ数年での環境悪化は肌身に感じています環境保全ではなく環境改善が必要だと考えます。
支援者の皆さまと何が出来るか一緒に考えたらと思います。

支援者向けコメント

多種多様な生物が生息する自然を守り農薬や除草剤を使わない自然栽培の米づくりをしながら奄美大島の稲作文化保全に力を入れています。奄美大島には約200の集落があり昔は各集落には田んぼがあって一年間生活するためのお米を作っていました。毎年、旧暦の9月、10月になると各集落では今年の稲の収穫を祝う神事が開催され踊りや相撲がとられたり今も昔も賑やかに行われます。私たちが活動する秋名・幾里集落にも400年続のお祭りがあり国指定重要無形民俗文化財に指定されています。奄美稲作保存会は神事で用いる稲わらを2022年から継続的に提供しており、奄美大島の伝統文化の保存に貢献しています。

各集落の神事は稲作が関係しているのが多く稲作と文化が大昔から繋がっていたことがよく分かります。しかし国の減反政策やサトウキビ政策で水田は畑に変わり奄美群島で大規模な水田が残るのは自然共生サイトに認定された水田がある秋名・幾里・大勝集落だけです。40haある水田ですが現在30haが耕作放棄地に、作物が育てられている水田は10ha、そのうち米作りをしているのはたったの2haしかありません。毎年、米作り生産者の方々は減っていき現在は5名、年齢は70代の方々がほとんどです。このままではあと数年で米を作る人はなくなってしまい奄美大島の稲作文化がなくなってしまいます。各集落の神事に使う稲藁も秋名・幾里・大勝の水田で作っているのので今後、行うことができなくなってしまいます。

私たち奄美稲作保存会は少しでも耕作放棄地をなくし生産者の方々が米作りをしやすい環境を整え多種多様な生物が生息する環境と稲作文化が残る地域を今後50年、100年と未来に残していきたいと思っています。

長文になりましたが組織としては自然共生サイトの中で1番小さいかもしれませんが思いだけはどの自然共生サイトよりも熱い自信があります。一緒に考え盛り上げていただける支援者の皆様お待ちしています。



自然共生サイト等情報 | <https://www.instagram.com/amamiinasaku>

